

# 松 桜 会 報

No. 44

駒場高等学校同窓会会報 1988. 7. 18

財団法人 駒場松桜会

〒153  
東京都目黒区大橋2-18-1

都立駒場高校仰光寮

TEL (466) 7579

振替口座東京9-28486

## 駒場高校をお預かりして

学校長 高 橋 道 彦



なかでも、学校の開設から係わった駒場北高、金沢生徒が三十名足らずの小笠原高、反対に千四百余名が在籍した鹿高は、特に得難い継戦として印象が強いですが本校はまた創立八十年の歴史と伝統を持ち続けて、いるという点で特に感佩深い学校であります。

此の度、縁あって、駒場高校の校長を命ぜられました。前校長細野先生とは、担当教科(生物)が同じであり、ご交誼も数十年に及び、尊敬申し上げておりました。はからずも、その後をお受けし、伝統ある駒場高校をお預かりすることになり、浅学非才の身に、その大任の重さをつくづく感じて居ります。

まず、ご挨拶がわりに自己紹介をさせていただきますと、私生れも育ちも東京で、学校は尋常小学校を始めとして、すべて旧制度(旧制度の最後になります)を卒業し、教員になって今年で三十六年になります。その間、豊多摩高(十三年)、国立高(九年)、調布北高(四年)、小笠原高(二年)、小山台高(三年)、鹿高(三年)を歴任し本校にまいりました。

現在の駒高の生徒は、在校中は意識しないが、卒業して、社会の母教にたいする評価の高いのに驚くといえます。都立の高校が公教育機関としての様々な制約や学区制、入学選抜制度などの改革により、校風の均質化・伝統の喪失、偏差値偏重による新たな格差の形成、などの進むなかで、駒高が格別な独特の風を保ちつ

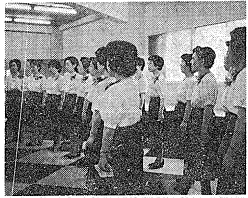
けて、いるという事は、敬仰すべきことであり、都立高校のなかで大変貴重な存在であるといえます。そもそも伝統や校風が形成され、それを承継していくものは、その学校に、学生徒と、学校を巣立た卒業生であり、それぞれの活躍ぶり、その相互を結び続ける歌、愛の絆とよばれるものであります。駒高の校舎も設備も数年前には全面的に改築、新築しなければ

## 松桜会

### 総会の記

初夏の香ただよ五月十五日、午後一時半より母校生徒ホールで六十三年度の総会を開きました。式次第は左記の通りでございます。

- 一、開会の言葉
- 二、理事長挨拶 (宮田理事長 病欠欠席のため善万理事が代行)
- 三、校長挨拶
- 四、前校長挨拶
- 五、事務室長挨拶
- 六、生徒会(助成金)贈呈
- 七、善万理事より教頭先生へ
- 八、報告
- 九、事業報告
- 十、会計報告



一、駒場幼稚園の現況  
園長 32 雨 鹿野京子  
一、細野前校長の御発言で、元校長鈴木満舎先生の監製豪華賞状の紹介があり鈴木先生の挨拶がありました。  
二、つづいて坪野春枝様(駒二)指揮の下に木曜会のメンバーのコーラス四曲、無伴奏の二見事に歌って下さいました。校歌斉唱(一) 同で総会を終了致しました。  
あとは親睦会という事で、あちこちに、楽しい輪 outgoing、笑声が聞かれました。  
理事會と致しましては、総会をいかに演出するかについて、常に頭を悩ませて居りますが、若い世代の方々の御意見を聞かせ下さいます様、お待ちしております。  
総会があくまで親睦を旨とした会合でございます。毎年五月の第三日曜日に開催する事になって居りますので、是非ご予定の中に入れておいた下さいます。

唯々

感謝のみ

前校長 細野 重陽
今春は程よく降雨があった所為か、新緑がとりわけ鮮やかです。あ

仲々会合に出席できず、直接お手
伝い申上げる事が出来なかったと
を深くお詫言申上げます。

同期会便り

卒業六十年同期会

23期 莊田 操子
昭和六十二年十月二十一日、新
宿ヒルトンホテル四階の間に二



合戦、心は遠く生徒時代にかえっ
た所では始まりは、フランス



でお出でとなった少女時代の写真
を見乍ら、四十数年前の思い出語に

同窓生の声



フランス料理の大家

お待ちいたしました。今年の松桜会々報ではフランス料理の大家
で現在も諸外国をまわり指導をつとめておられる川上さん、62

料理の道へ

23期 川上のお

競争そして敗戦という事態に見
舞われた、明治生れの若者にそれ



作家

十代のささやかな反逆を強く思
い出し、そして、あれから三十年

ささやかに反逆しつつ
駒10-1 西巻茅子
駒嶺高校に入学し一学期が過



収支決算書 昭和62年4月1日～昭和63年3月31日

収 入 の 部

科 目	62年度予算	62年度決算	63年度予算	増・減
基本財産運用収入				
基本財産利息収入	500,000	578,414	500,000	78,414
事業収入				
観劇会収入	50,000	80,790	70,000	30,790
会費収入	5,695,000	5,747,000	5,632,000	52,000
正会員会費収入	4,300,000	4,352,000	4,300,000	52,000
新入会員入会金	1,395,000	1,395,000	1,332,000	▲63,000
会館建設等積立金収入				
積立財産利息収入	130,000	118,622	120,000	▲11,378
雑収入	20,000	34,053	15,000	14,053
寄付金	10,000	30,000	10,000	20,000
運用財産利息収入	10,000	4,053	5,000	▲5,947
当期収入合計	6,395,000	6,558,879	6,337,000	163,879
前期繰越収支金額	1,300,000	991,781	500,000	▲308,219
収入合計	7,695,000	7,550,660	6,837,000	▲144,340

支 出 の 部

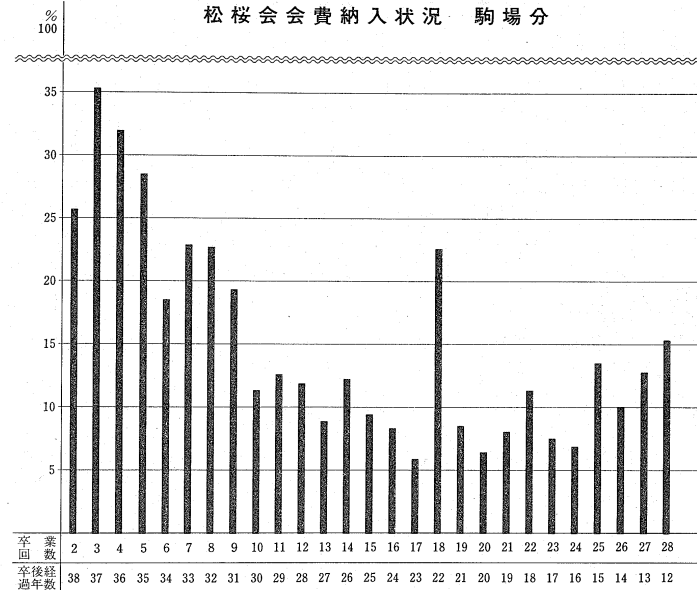
科 目	62年度予算	62年度決算	63年度予算	増・減
事業費	3,030,000	3,048,632	3,010,000	18,632
会報編集費	2,200,000	2,248,632	2,200,000	48,632
名簿委託管理費	600,000	600,000	600,000	0
助成金	200,000	200,000	200,000	0
(駒場高校生徒会)	200,000	200,000	200,000	0
雑費	30,000	0	10,000	▲30,000
管理費	2,750,000	2,032,710	1,920,000	▲717,290
諸手当	1,200,000	948,000	750,000	▲252,000
会費	400,000	252,830	300,000	▲147,170
(総会・理事会・評議員会)				
備品費	50,000	42,500	30,000	▲7,500
消耗品費	50,000	16,030	30,000	▲33,970
通信費	500,000	262,100	300,000	▲237,900
旅費	250,000	213,860	250,000	▲36,140
公租	0	5,400	10,000	5,400
雑費	300,000	291,990	250,000	▲8,010
積立預金支出	1,800,000	1,997,036	1,700,000	197,036
基本財産積立金	1,100,000	1,178,414	1,100,000	78,414
会館建設等積立金	700,000	818,622	600,000	118,622
備費	115,000	150,000	207,000	35,000
当期支出合計	7,695,000	7,228,378	6,837,000	▲466,622
当期収支差額	1,300,000	322,282	500,000	▲977,718

諸証拠書類と帳簿照合の結果、収支とも  
正確に執行されていることを証明します。  
昭和63年4月25日

監 事 土 田 敏 裕 ⊕  
城 戸 み ち ⊕

基本財産積立金	奨学積立金	会館建設等積立金
繰越金 10,224,851	繰越金 2,357,717	繰越金 1,141,568
金銭信託利息 523,563	定期利息 80,144	定期利息 38,802
62年度積立 600,000	62年度積立金 100,000	62年度積立金 600,000
11,348,414	2,537,861	1,780,370

松桜会会費納入状況 駒場分



上記の表は駒場卒業生の松桜会  
費の納入状況(最近四年間の平均  
値)を百分率であらわしたもので  
す。どのような感想をもたれまし  
たか。

駒場になってからの卒業生は一  
五八六四人、この内会費納入対象  
者は一三五〇四人ですが、会費納  
入者はその一五〇弱にしかなりま  
せん。第三の卒業生は駒場の三分  
の一ですが納入会費は第三のそれ  
に及びません。松桜会はこの会費  
の総会と秋の懇親会をやってお  
れております。松桜会の事業とし  
て母校生徒会活動への助成、同窓  
会館設立基金の積立、会報発行  
に及びません。松桜会は勿論、駒場  
卒の方々でも松桜会のものと思  
えておられる方もあろうかと思  
いますが、東京都の所有なのです。  
松桜会は財団法人になっています

会費納入の  
お願い

上記の表は駒場卒業生の松桜会  
費の納入状況(最近四年間の平均  
値)を百分率であらわしたもので  
す。どのような感想をもたれまし  
たか。

同窓生が自由に使える会館が欲  
しい、なければ同窓生、在校生  
共に利用出来る施設が欲しい、そ  
のためには積立金をもっと増やさ  
なくては、と思いますが、今の会  
費の納入状況ではとても無理な話  
です。今年度からは常勤者の出勤  
手当も減らしました。現状では事  
務のOA化など高額の華、しかし  
このままの状態を続けるわけには  
参りません。創立百周年も真正か  
になってきたことですから、ここ  
から奮気一番、先ず会費を納めて  
下さい。その上で何か利益をあげ  
られる事業を、皆様の知恵を借  
してやりたいものです。

駒五・四原田慶子





最近5か年間の大学合格状況(含保体科)

Table with columns for University Name, Year, and Number of合格 students. Lists various universities like 北海道大, 東北大, etc., and their admission numbers from 1958 to 1963.

松桜会秋の観劇会ご案内

日時 11月8日(火) 開場 午前10時30分
開演 午前11時

場所 新橋演舞場 03(541)2211(代表)

演目1 『お玉の行く道』雁より
原作 森 鷗外 演出 石井ふく子

出演者 波乃久里子 坂東正之助

演目2 『お葛という名の女』
極道ざんげ無惨な姉系図より
原作 川口松太郎 演出 成沢昌茂

出演者 中村勘九郎 水谷 良重

料金 9,000円(100席)

お申込み方法

ハガキで枚数のみお申し込み下さい。
100席予約いたしました。昨年はお申込だけでは半分に満たない
状態でしたので、観劇者の方、特に劇場の方にも御参加下さるよう
お願い申し上げます。

締切りは 10月10日

(まともり次第席割りで改めてご案内を致します。)



レッシュに演じられようにな
りました。今思えば、保健体育科
での三年間、数多いレッシュ
に打ち勝つて自分が強くなっ
て来たのだと信じ、又、そう信じら
れる三年間であったと思います。
(横浜国立大学)
駒場の性格と学園祭
駒40-8 倉本英治
駒場で過ごした三年間をふり返
つてみて、学園祭だと思えます。
高校時代、僕は駒場以外の色んな
学校の学園祭に行きましたが、は
つきり言ってしまう、学校の学
園祭は本場です。
生が全く企画して生徒がイチャ
ヤ面倒くさそうにそれを実行した
り、ただの自己満足で終わって
いた。
そんな中で、駒場の学園祭は本
場に劣らなかつた。どうや
らにお客さんへの評判をとれるか
と

幼稚園だより

子どもの目に映った戦争
原画展によせて
園長 32南 鹿野 京子

一九四八年、ポランド教育省の
か。人類差別をなし民族対等
が戦争体験を記録するために全国
の小学生に呼びかけて集めた約六
千点の絵と数頁の作文は、ポー
ランド現代資料館に大切に所蔵
つて努力しています。
されていきます。ナチスによる残虐
平和への切実なねがひ...この上
行為の惨状が子どもたちの目と心
なく悲惨な体験をし、失われた数多
を通して描かれた原画の一部を昨
年度日本を断絶して五十二カ所
展覧 故郷を遺棄した一日の展覧
会を園で開かれました。年
末のその日、在園児やその兄弟中、
高校生や大学の卒業生、保護者たち
百名以上が来場しました。作品は
子どもたちの高さに見えましたが
顔を近づけて身をよせ、よせよせ
じみと見入りました。しずかにひ
たむきに...こわい、こわい、こわい
／かわい、そう、それは誰しも抱く
感情です。何故かその生きている
かれない、どうして戦争する
の、これはむづかしい問いです。
字の書ける子どもたちは真剣に考
え、記しました。自分たちが大人
になった時...戦争を絶対に許さ
ない、そのためにはどうすればよ
い、という問いが、あふりました。

思い出 あれこれ

23南 田中 操子
在戦時代の思い出のすがたに、
少し書いて見たいと思います。六
本木から「芋洗ひ坂」を下つて右
側にアーチ型の石の門、入ると右
側の前大地球儀、進むと前方に石
造の噴水、登りつめ所が「下下運
動場」、正面に御影の華厳殿があ
りました。

〈新入会員の声〉

井の頭線の電車が駒場東大前の
駅に近づいていくと、わたしの頭
の中ではラッシュの音が始まる。
それは登下校時の自分の姿で
あったり、笑っている友人の顔で
あったり、あるいは授業中の風景
であったりする。大学へ通うため
この駅を通過するようになったが
今で約二カ月前のことだ。もうわ
たしはこの駅で降りる必要はな
くなったのだが、今もなおつとポ
ムム立ってしまいたいような衝動
にかられる。ここへ行けば、また
あのあたたかい駒場に会えるの
に。
思えば駒場での高校生活は温室
の中でのような日々だった。常に
快適な状態であり、在学中には驚
きなかったのだが伝統がもたらす
のだから、一種独特の悠悠とした
雰囲気に包まれて三年間を過ご
すのが、個性が光る、個々に思い
返してみると予言に迫られた、学園
祭日前から追い込みをせしめら
れた。なかなか起伏に富んでいた
が、なぜか全体として捉えられて
しまふのである。
駒場は決してエキサイティング
な学校ではない。しかし安定した
環境の中で安定した精神を培うこ
とが出来た。今後の自分を築き上
げていくための土台が知らず知ら
ず形成されたように思う。母校
まに帰りたい。
いつかまた、あたたかき
そのままであってほしい。
(中大大学・法)
保健体育科に所属して
駒40-1 小池直子
母校、駒場
駒40-4 小池直子





